

歯なしの話

～津山歯科医師会～



3回にわたり歯がすべてなくなった口と総入れ歯の話をしてきましたが、今回は最後となりました。

口には様々な役割がありますが、最も重要なのは食べるということでしょう。私たちは食べ物を摂取し、それを消化、吸収して体内にエネルギーを取り込んでいます。その最初の入口が口です。食べ物を口に入れて歯でかんで小さくし、咀嚼運動をして唾液と混ぜ合わせ飲み込む。これが消化吸収の最初の段階です。

野生動物では、歯がなくなり、獲物を捕ることができず、食べられなくなると死に直結します。幸いなことに私たちは入れ歯をはめることによって、歯があったときと比べて50%が限界と言われてはいますが、咀嚼能力を回復し、かむことができるようになります。



しかし総入れ歯ははじめから何でもかめてうまく使えるものではありません。義手や義足と同様に、身体の一部になり十分に機能が発揮できるまでにかなりの期間と調整が必要となります。その反面、身体になじんだ総入れ歯ほど役に立ち、ありがたいものでもあるということ、使用している人は実感していることと思います。

歯なしの話をさせていただきましたが、歯が1本でも残っていることは大変幸運なことです。歯を残す努力はとても大切です。”転ばぬ先の杖”。適切な口の手入れ方法を歯科医院で学び、それを実行していただきたいと思います。



徳川将軍は総入れ歯をはめていました。木床義歯といって、ツゲの木にろう石の人工の歯を並べたものですが、構造は現代のものとはほとんど変わりません。十分に食べることができたらろうと想像させる総入れ歯です。日本には江戸時代から入れ歯を作る技術があったのです。

どうぞ、歯がすべてなくなった人も、これからの人生を総入れ歯とともに快適な食事ができる毎日をご過ごしていただきたいと思います。

ありがとうございました。



お問合せ先：津山市健康増進課 0868-32-2069